

星をみる会

令和6年8月12日(月)、11月9日(土)、12月14日(土)、令和7年2月1日(土)

【目的】

親子を主な対象に、本所が有する資源を活用した自然体験活動である「天体観察」の機会を提供する。その際、季節によって自然のすがたが変化することなど、自然に対する理解をより深められるよう、年間を通じて計4回開催する。

【参加者】天体観察に興味・関心のある家族 各回200名

【プログラムの内容】

回	開催日	テーマ	参加人数	天候
1	8月12日(月)	ペルセウス座流星群・夏の天の川	36家族(140名)	晴れ
2	11月9日(土)	おうし座流星群	36家族(129名)	曇り時々晴れ
3	12月14日(土)	ふたご座流星群	22家族(72名)	曇り時々晴れ
4	2月1日(土)	冬の星座と火星・金星	4家族(12名)	雨

「ペルセウス座流星群・夏の天の川」(第1回)

テーマであるペルセウス座流星群を観察することができ、参加者の満足する声を多く聞くことができた。また、夏休み期間中で参加する家族が多く、たくさんの参加者に体験機会を提供することができた。



レジャーシートを敷いて星空を見上げる参加者の様子

「おうし座流星群」(第2回)

雲が多くてなかなか星や天体が見えにくい時もあったが、晴れ間が見えた時間帯は、望遠鏡を使って、月や木星などの観察を行った。流れ星の観察ができなかったが、講師の星に関する解説が参加者から好評であった。

「ふたご座流星群」(第3回)

会全体を通して、空が曇る場面が多かったり、月が明るかったりして、テーマであるふたご座流星群や星の観察には難しい日となった。一方で、月や惑星(土星・木星)をじっくり観察することができる機会となった。



天体望遠鏡を使った観察の様子

「冬の星座と火星・土星」(第4回)

雨模様のため室内での星の話となった。前半は、この日観察可能だった星座や惑星の話聞いた。後半は、天体望遠鏡を触ったり、惑星の距離や大きさを地球儀とボールを使って理解したりした。

【参加者の声】

- ・望遠鏡で見た天体、街明かりに邪魔されない星空、流星の全てに感動しました。何かに感動するというのは子どもの成長のためにとっても良い体験になります。(第1回)
- ・老若男女だれでも楽しめるイベントと感じました。参加することができ、自然豊かな山口に住んでよかったと感じました。次回以降もぜひ参加させて頂きたいです。(第2回)
- ・先生のお話がいつも楽しく、何度も同じことを丁寧に教えていただけますので、子供がだんだん星に詳しくなってきました。(第3回)
- ・雨天でがっかりしていたのですが、冬の星座や惑星について詳しく教えてもらえ、あっという間の2時間でした。参加してよかったと思っています。(第4回)

【成果】

- 年間を通じて複数回開催することで観察の機会が増え、季節ごとに異なる自然に触れる機会をつくることができた。
- 各回、指導員が2名いることで、1名が天体望遠鏡を操作して観察できる天体を紹介している間に、もう1名がレーザーポインターを使用して星座や特徴的な星を紹介するなど、参加者が様々な星空のすがたを観察する機会を効果的につくることができた。

【課題】

- 天候によっては参加者にとって十分な観察の機会が提供できないことがあった。そういった場合にも参加者が「来てよかった」と思えるよう、模型やプロジェクターを用いた説明について指導員と十分に研修をしておく必要がある。